

会派視察・研修報告書

会派名 市民ネットワーク

代表者名 井上あけみ

1 日 に ち	令和元年8月3日(土) 13:40～17:00
2 視 察 先 研修名、主催者及び会場	研修名:未来を創る学びとは?～みんなで考える「すべての子ども」の学びを保証するには～ 主 催: インクルーシブ愛知プロジェクト (名古屋市中区役所ホール) ゲスト:前川喜平氏 上井靖氏 (愛知教育大学・金城学院非常勤講師)
3 参 加 者	井上あけみ
4 調 査 内 容 研 修 内 容	障がいのある子、不登校の子、外国籍の子等、学校教育の場から排除されてきた子たちが共に学べる社会、学校作りについて、2人のゲストのトークと実際の子どもたち、NPO、NGOの方たちが本音で語り合う。
5 所感、主な内容、提 言事項、課題等	◆第1部は前川喜平氏と上井靖氏が「未来を創る主体的な学びとは?」のタイトルで対談・・・前川氏は加計学園の獣医学部新設問題を巡り官邸側の関与を告発した文部科学省元事務次官として、広く名前が知られている。 上井氏は元名古屋市中学校の校長で、定年退職日が2週間後に迫った2018年3月、前川元文科省事務次官を中学校に講師に呼んだ公開授業について、文科省からの問合せメールへの対応の流れを説明する記者会見の様子が全国ニュースで流れた際、自身の考えを「主体性が子どもたちに育つためには、私たち教職員大人が主体性を持つことが必要」と冷静に語った姿勢が高く評価されている。上井氏からは「名古屋市の公立校改革・・・全公立校が共通の教育課程にならう長年の慣習を一部見直し、教員が子どもの個性に応じた自主性の高い授業を組めるような改革(イエナプラン)の検討を紹介。 前川氏の言葉で心に残ったのは「困った子は、困っている子」で支援が必要という事だった。 ◆第2部「未来を創る・共に学ぶ場のデザイン」 こんな学校、こんな授業、こんな先生・友達・・・子どもが安心してみんなと一緒に過ごせる学校のイメージが語られた。特に重度の障がいの兄を持つ小学生の女の子の言葉、家では「お兄ちゃんはお兄ちゃんなのに、外では障がい者となってしまう、お兄ちゃんであなくなってしまうというニュアンスの言葉が、涙声で語られ、少女の悲しみが伝わってきた。排除されてきた者の痛みとその家族の悲しみに応えるために、日本社会が変わらなければという思いを強くした。 ◆第3部 みんなでダイアログ・タイム(会場も含め対話の時間)

6 写 真 等

※視察の場合は必須、研
修の場合は任意



※視察先、研修先ごとに1枚作成すること。